

成長市場製品 事業説明会



■ 事業ポートフォリオの変革による利益成長

【大同特殊鋼グループ 経営理念】

素材の可能性を追求し、人と社会の未来を支え続けます



2030年の“ありたい姿”

高機能素材の価値を極め、顧客ベネフィットを創造し、
サステナブル社会の実現に貢献する

26中期経営計画の行動方針

1 事業ポートフォリオの変革

- 成長市場製品の拡大、さらなる事業成長
→ 素材の技術革新がイノベーションを誘発する産業へ経営資源を投入

2 経営基盤の強靱化

- 長期的な事業成長を支える人的資本や組織ケイパリティを獲得する
- ものづくりDXを推進し、労働生産性や品質MSなどの事業基盤を変革する

3 ESG経営の高度化

- ESG関連KPIの価値を顕在化し、企業価値 PBR向上に結びつける
- 特に、人財の価値を最大化するための施策を実行する



経済成長を牽引する産業を成長市場と定義

大同特殊鋼の成長市場製品

- 航空・宇宙
- クリーンエネルギー
- CASE(電動化)
- 半導体製造装置
- 医療
- その他 (船舶/他)

上記6領域すべてが「内閣官房日本成長戦略本部」が“重点投資対象分野”と定めた17分野の中に含まれる

■ 事業ポートフォリオの変革による利益成長

市場成長に連動した事業規模の拡大

市場成長率^高

持続的な成長の実現

2030年の“ありたい姿”

エンジニアリング

- ・環境設備開発力強化
- ・レトロフィット事業を拡充

自動車・産業機械部品

- ・航空・宇宙産業との共創関係深化
- ・認定取得を拡大

機能・磁性材料

- ・成長市場製品のラインナップ拡充
- ・半導体製造装置向け素材のシェア拡大

特殊鋼鋼材

- ・自動車産業との共創関係深化
- ・工場損益分岐点の引き下げ

【規模拡大事業】

- ・自由鍛造品

自動車部品
産業機械部品

2030年

機能材料
磁性材料

2030年

エンジニアリング
2030年

【規模拡大事業】

- ・環境設備（工業炉など）

【先進事業】

- ・ネオジム磁石
- ・LiB負極材
- ・軟磁性材料
- ・高合金帯・粉末
- ・チタン合金

【高収益事業】

- ・半導体製造装置用ステンレス鋼

ROS^高

【ベースロード事業】

- ・特殊鋼鋼材
- ・工具鋼鋼材

特殊鋼鋼材

2030年

FY2025

FY2030



円の大きさ：
営業利益

円の大きさ：
営業利益

【事業ポートフォリオの変革のための施策】

- 成長市場製品の拡大
- 戦略投資の早期効果発現
 - ・高合金プロセス改革プロジェクト、各戦略投資
- 日本高周波鋼業、東北特殊鋼とのシナジー発現などグループ事業強化
- 構造改革の推進（人材アロケーションなど）
- 固定費の削減、労働生産性向上

安定した営業キャッシュフローの創出

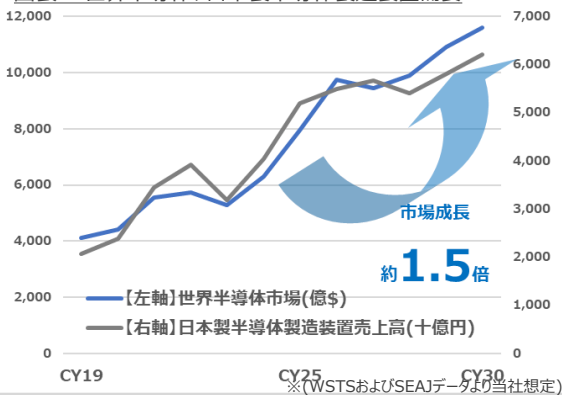
※レトロフィット：既存設備を改造して最新技術を取り込むこと、CN：カーボンニュートラル、CE：サーキュラーエコノミー、LiB負極材：リチウムイオン電池用負極材

■ 成長市場 素材の技術革新がイノベーションを誘発する産業

半導体

- ✓ 世界半導体、日本製半導体製造装置市場は
- ✓ 約1.5倍の市場規模へ

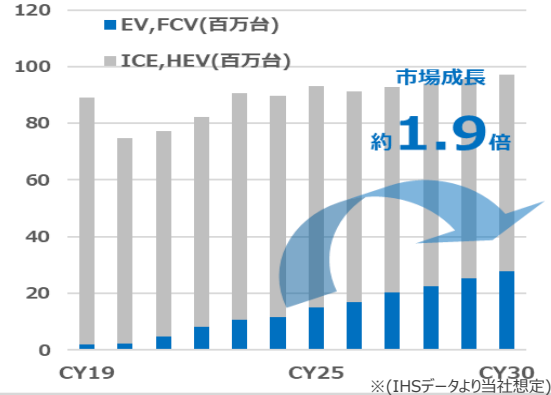
図表1 世界半導体、日本製半導体製造装置需要



CASE

- ✓ 電動車比率は30%まで拡大
(26中期(24年6月公表)：50%)

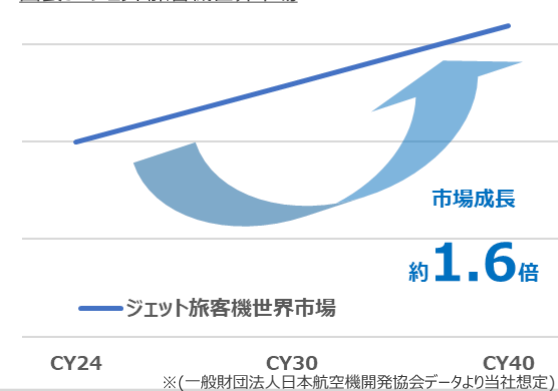
図表2 世界自動車需要



航空・宇宙

- ✓ 旅客航空機の市場規模は約1.6倍へ拡大見込み

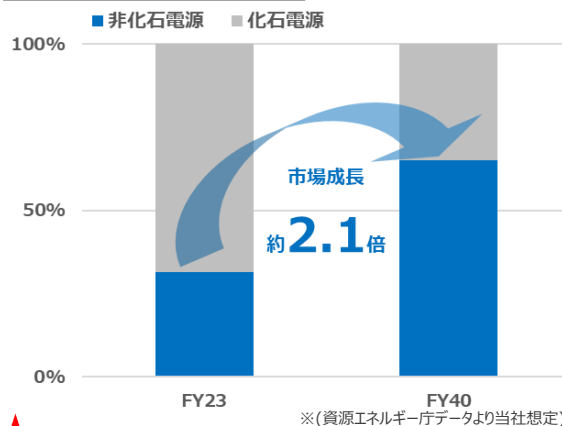
図表3 ジェット旅客機世界市場



クリーンエネルギー

- ✓ 再生可能エネルギー・原子力電源が伸長見込み

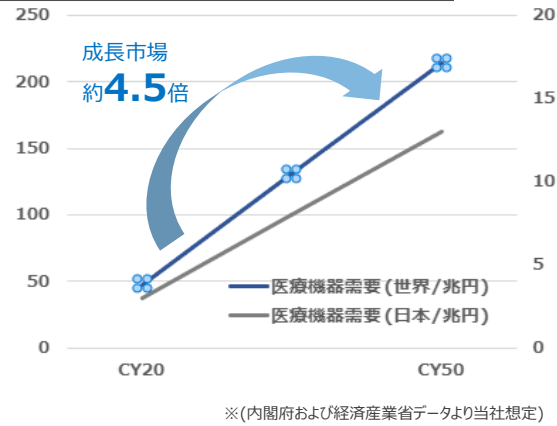
図表4 日本の電源構成政府目標



医療

- ✓ 医療機器市場は世界で200兆円を超える見通し

図表5 医療機器の世界市場と日本企業の獲得市場



海外

- ✓ 日本の実質GDP成長は頭打ちの見込み
世界の「成長市場」に照準を当てる

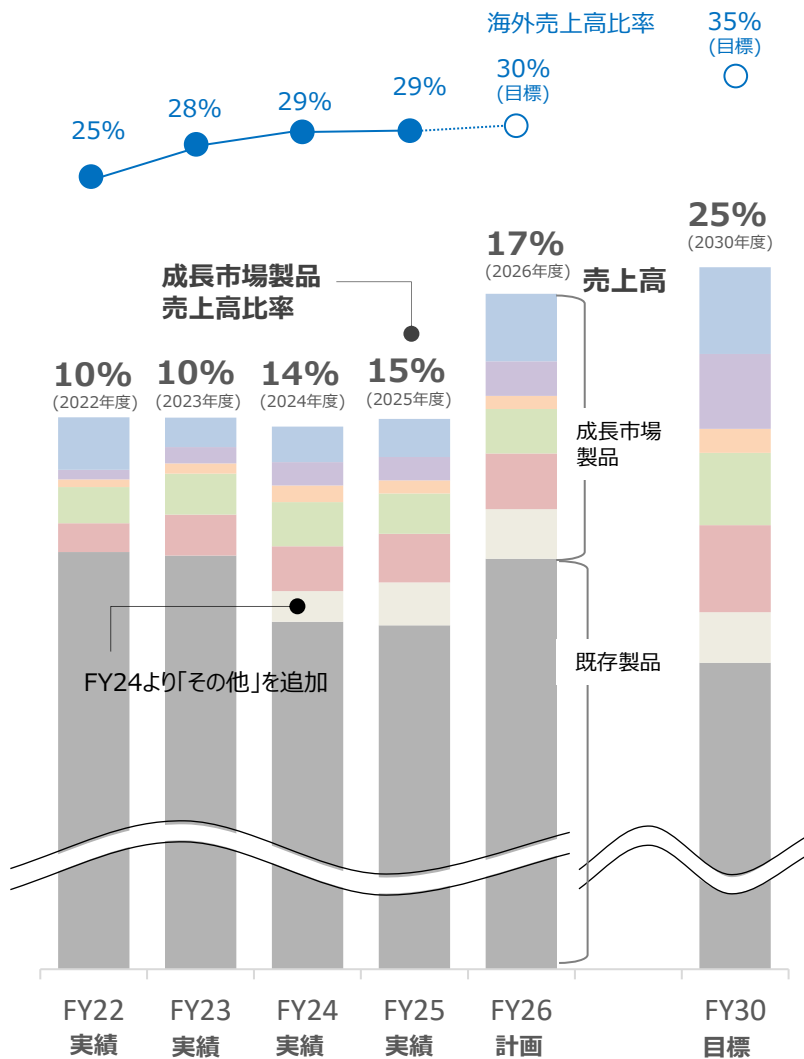
図表6 実質GDP成長率(単位:%)

	CY25	CY26	CY27	CY28	CY29	CY30	CY31
世界	3.4	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1
日本	1.2	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
北米	2.1	2.3	2.1	2.0	2.0	1.9	1.8
欧州	1.4	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1
中国	5.0	4.4	4.0	3.8	3.7	3.5	3.3
インド	7.6	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
ASEAN5	4.5	4.1	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3

※(IMFデータより当社想定)

■ 成長市場製品の拡大

成長市場製品売上高比率（連結）



[FY30に向けた成長市場別の活動方針]

		対象セグメント
半導体	新規海外需要家との取引拡大 本格的な需要回復を見据えVAR導入	
航空宇宙	高合金プロセス改革で、製造能力を拡大するとともに製造可能範囲を広げ、更なる需要を獲得	
医療	チタン製品の海外需要の確実な捕捉 Ti-15Mo(生体用低弾性率チタン合金)の拡大	
クリーンエネルギー	STARQ(巡回式電気炉)など省エネ製品の拡大 革新炉向け部材の採用に向けた取り組み推進	
CASE	重希土類フリー磁石の新規製造ラインを順次建設 電動車両向け軟磁性粉末の売上げ拡大	
その他	船舶、防衛、産業ロボット用途などを成長市場製品に追加（FY24より）	
既存製品	自動車・産機向け既存需要は減少していくものの、国内シェアアップと海外需要を捕捉	

特殊鋼鋼材
 自動車・産業機械部品
 機能・磁性材料
 エンジニアリング

■ 成長市場製品の利益貢献イメージ

市場成長に連動した事業規模の拡大

市場成長率^高

持続的な成長の実現

エンジニアリング

- ・環境設備開発力強化
- ・レトロフィット事業を拡充

自動車・産業機械部品

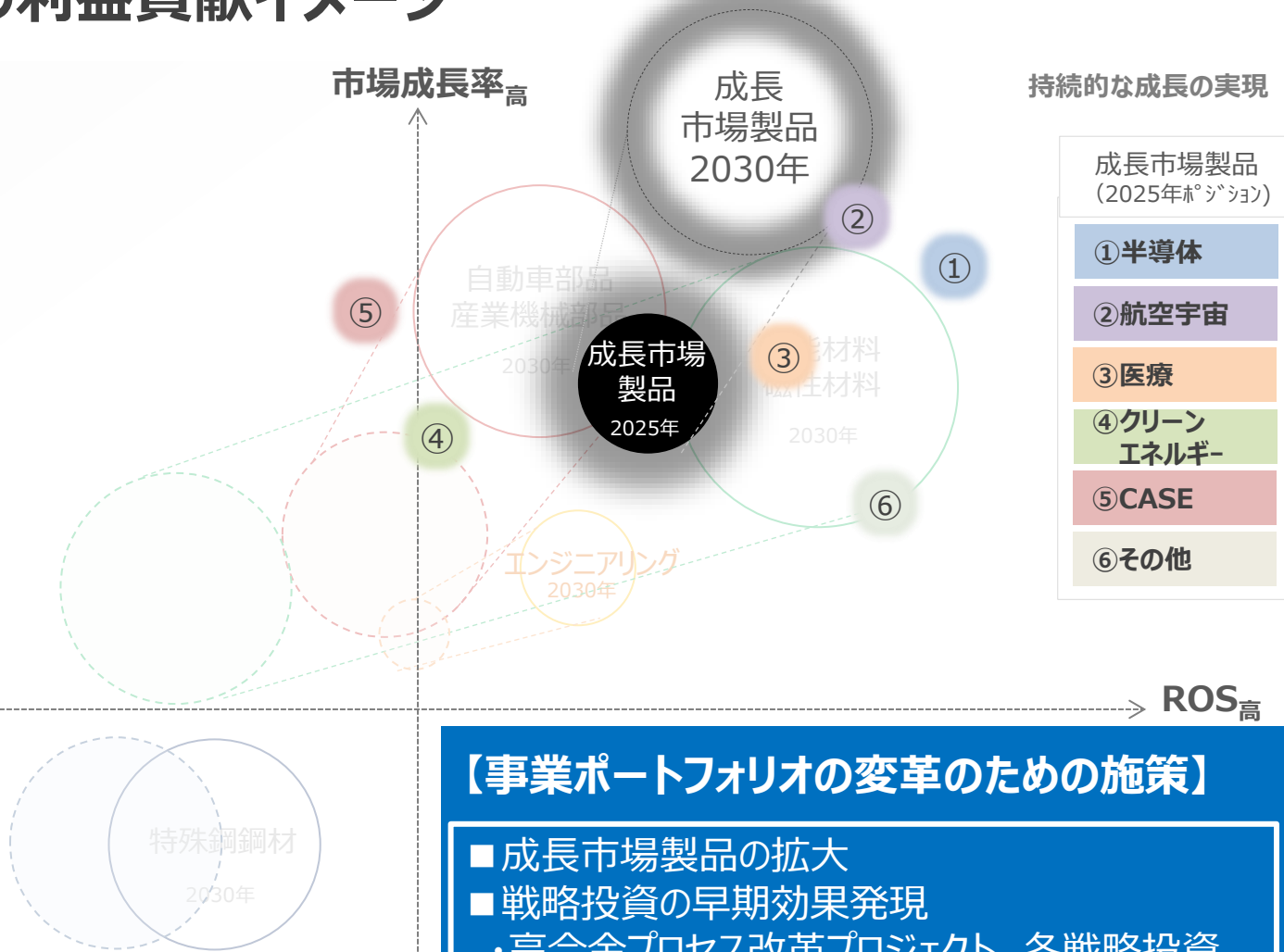
- ・航空・宇宙産業との共創関係深化
- ・認定取得を拡大

機能・磁性材料

- ・成長市場製品のラインナップ拡充
- ・半導体製造装置向け素材のシェア拡大

特殊鋼鋼材

- ・自動車産業との共創関係深化
- ・工場損益分岐点の引き下げ



成長市場製品
(2025年ポジション)

①半導体

②航空宇宙

③医療

④クリーン
エネルギー

⑤CASE

⑥その他

ROS^高

【事業ポートフォリオの変革のための施策】

- 成長市場製品の拡大
- 戦略投資の早期効果発現
 - ・高合金プロセス改革プロジェクト、各戦略投資
- 日本高周波鋼業、東北特殊鋼とのシナジー発現などグループ事業強化
- 構造改革の推進（人材アロケーションなど）
- 固定費の削減、労働生産性向上

FY2025

FY2030

円の大きさ：
営業利益

円の大きさ：
営業利益

安定した営業キャッシュフローの創出

※レトロフィット：既存設備を改造して最新技術を取り込むこと、CN：カーボンニュートラル、CE：サーキュラーエコノミー、LiB負極材：リチウムイオン電池用負極材

■ 成長市場製品 各分野の製品事例

半導体	航空宇宙	医療
 <p>バルブ MFC 金属フィルター</p> <p><small>日本精線株式会社製 「半導体ガス用フィルター NASclean®」</small></p>	 <p>ジェットエンジンシャフト</p>	 <p>生体用：人工骨、人工関節、人工歯根 機器用：エネルギーデバイスなど</p> <p>チタン製品</p>
クリーンエネルギー	CASE※	その他
 <p>炉体回転式電気炉「STARQ」</p> <p>耐水素脆化用鋼</p> <p>水素ステーション・水素モビリティ・水素製造プラント・水素タービン発電などの材料ニーズ拡大</p>	 <p>重希土類フリー特殊配向磁石</p>	 <p>船舶用エンジンバルブ</p>

※CASE : Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric

■ 半導体製造装置向け高潔淨ステンレス鋼について

特長

- ✓ 大同開発の高潔淨ステンレス鋼
- ✓ 高潔淨度化および成分最適化により優れた耐食性を実現
- ✓ 用途や要求特性に応じた製造工程の造り分けにより3つのグレードを展開

鋼種	主要プロセス
	1次溶解/2次溶解
CLEANSTAR-A	VIM / VAR
CLEANSTAR-B	AF / VAR
CLEANSTAR-C	AF / -

主な用途

- ✓ 腐食ガスが使用される前工程設備(薄膜形成、エッチング)において採用
- ✓ バルブ、継手、マスフローコントローラー、金属ガスフィルター、ガス供給ラインパイプ向け素材



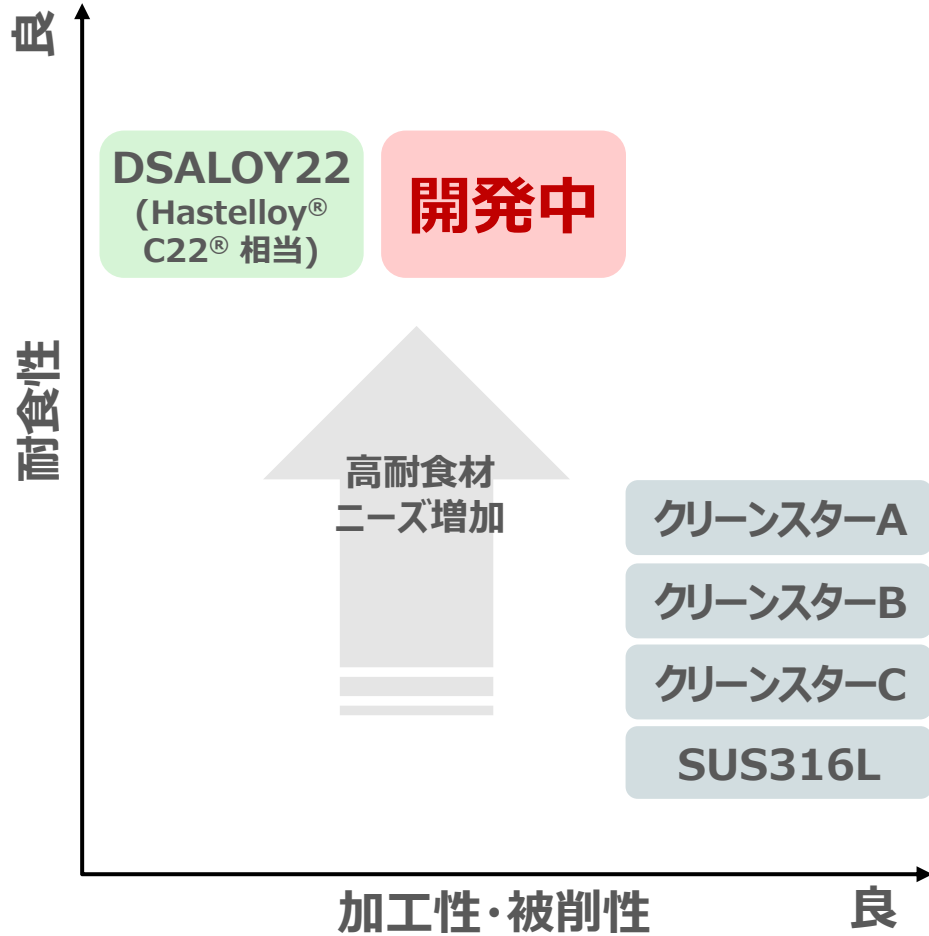
当社の強み、成長戦略

- ✓ 将来的な高耐食性、加工性改善ニーズへ対応すべく**新規材料を開発中**
- ✓ 製造能力では国内トップで、米国競合と比較しても遜色なし。今後の需要増加を見据え、タイムリーな設備投資を実施 (**25年2月～ 知多第2工場にてVAR2基 稼働開始**)
- ✓ ユーザーである部品メーカーとの共創関係を構築し圧倒的なシェアを確保 (**世界シェア40%超**)
- ✓ 大同グループの海外拠点(北米、中国、欧州)を通じて、新規顧客を開拓中

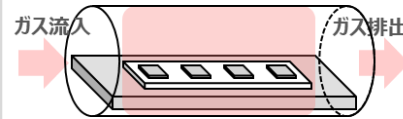
■ 市場ニーズに対応した材料開発・評価技術の導入

- ✓ 半導体回路の微細化・高積層化の製造に伴い、より高耐食な素材のニーズが増加するものと認識
 - ✓ 一方、より高耐食な素材として適用されている、DSALLOY22 (Hastelloy® C-22® 相当) は高価かつ加工性に劣る
- ⇒ 高温ガス腐食試験装置を独自に導入、実使用環境により近い条件での評価を実現
- ⇒ 得られた知見を元に、高耐食性と良好な加工性を併せ持つ素材を開発中 (26年度中にリリース予定)

※Hastelloy および C-22 は Haynes International, Inc. の登録商標です



<参考> 高温ガス腐食試験装置 (イメージ)

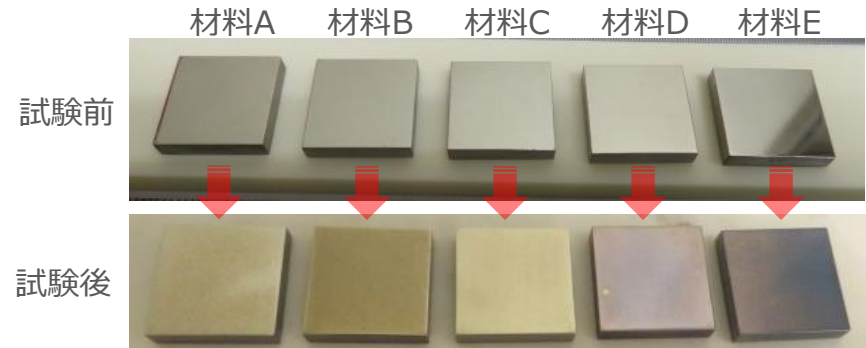


- ・複数の腐食ガスを選択可能
- ・任意の温度まで加熱が可能



高温ガス腐食試験試験場 (知多第2工場内)

<参考> 材料による耐食性の違い (試験片外観)



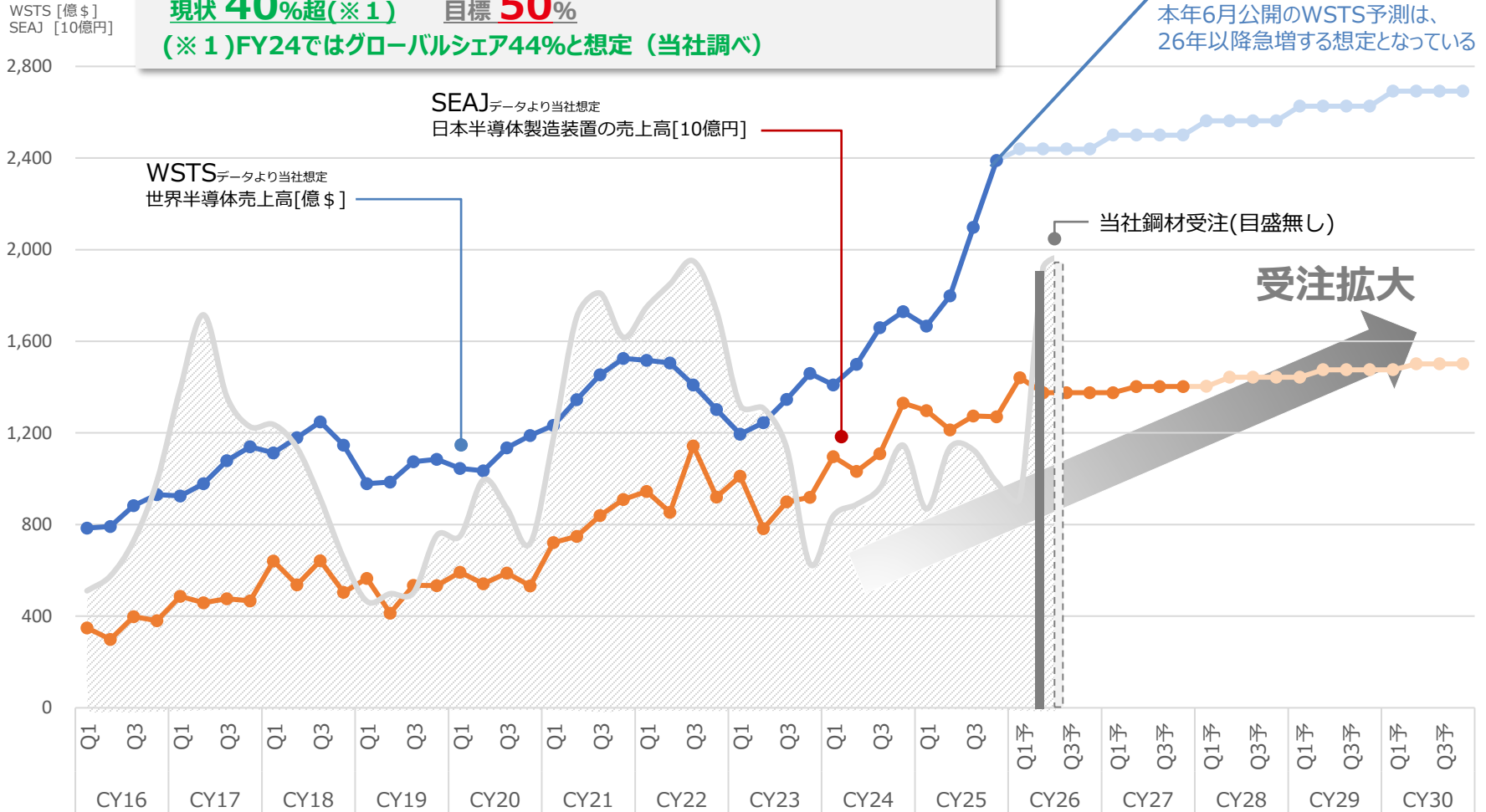
腐食ガス : HF

■ 半導体需要環境と当社受注推移

- ✓ 半導体、半導体製造装置の需要は2026~2030年にかけて増加する見通し
- ✓ 当社受注についても市場拡大に伴い増加想定

高機能ステンレス棒鋼・線材におけるグローバルシェア

現状 **40%超**(※1) 目標 **50%**
 (※1) FY24ではグローバルシェア44%と想定(当社調べ)



※WSTS : World Semiconductor Trade Statistics (世界半導体市場統計)

※SEAJ : Semiconductor Equipment Association of Japan(一般社団法人 日本半導体製造装置協会)

■ 航空・宇宙向け製品の概要

特長

- ✓ 軽量で、高強度、高靱性、耐熱性を高い次元で満たすジェットエンジンシャフトは、世界の主要航空エンジンメーカーの製造認定を取得（100席以上の旅客機用エンジンの世界シェア約**25%**）
- ✓ 溶解から鍛造・圧延～仕上げ（粗仕上げ）の一貫プロセスと徹底した品質管理体制を構築
- ✓ 最先端の高度な技術とノウハウは、今、他の事業分野を牽引する存在に

主な用途

自由鍛造品（自動車部品・産業機械部品）

ロングシャフト



スタブシャフト



ディスク



高合金バー



戦略投資

- ✓ 航空宇宙産業での永続的プレゼンス獲得に向け、航空宇宙エンジンの大型回転体、ターボポンプ用Ni基合金で、アジア初のプライム認定獲得を目指し、高合金生産プロセスを抜本的に変革するプロジェクトを推進中

溶解能力(VIM,VAR)の増強、大型四面鍛造機導入による製造可能範囲拡大し新たな需要を獲得する [投資額360億円,27年度完工予定]

		FY25	FY26	FY27
渋川工場	VIM能力増強	工事	[26/4]営業運転開始	
	大型四面鍛造機導入		工事	
	加工・検査ライン導入	工事	営業運転	
知多第2工場	VAR×2基増設	工事	[26/2]営業運転開始	
	加工・検査ライン導入	工事	[26/4]営業運転開始	

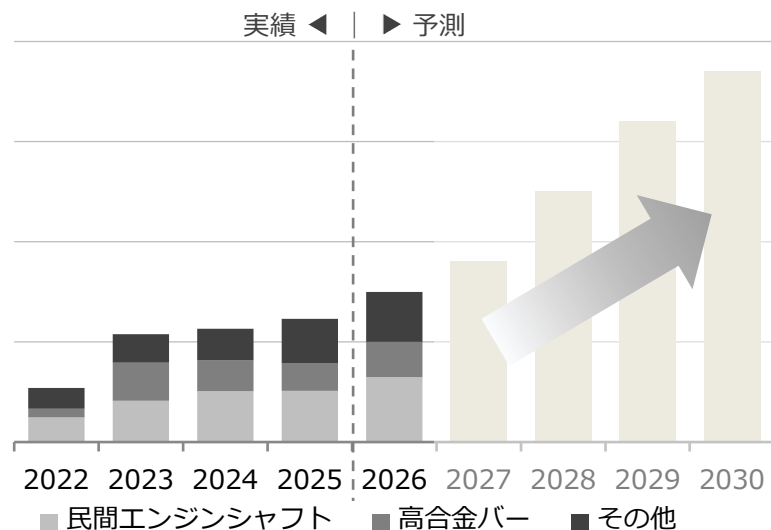


大型四面鍛造機（27年度完工予定）

■ 航空・宇宙向け製品の成長戦略

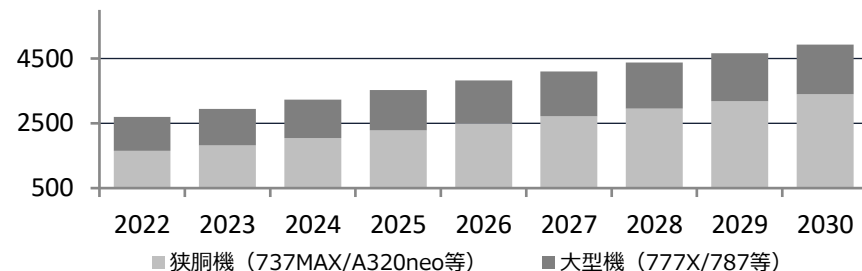
- 民間航空エンジン・宇宙需要増を背景に、高合金・軸物を主体に盤石な成長基盤を構築
- 長期契約と世界水準の認証力、代替困難な素材技術を武器に、グローバルサプライチェーンの中核として持続的な価値を創出

航空・宇宙向け 売上推移（実績 + 予測）

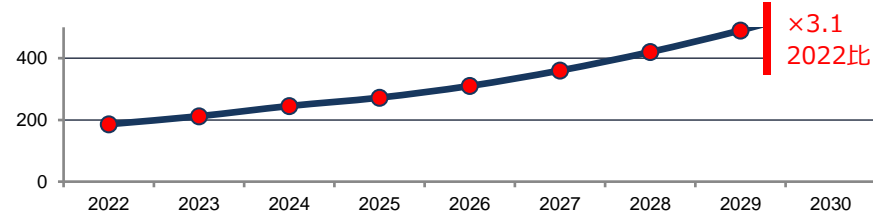


民間エンジン納入台数（需要）

業界予測ベース推計



宇宙打上げ回数（商業打上げ含む；需要）



宇宙OEM

宇宙OEMとの良好な関係性を深化
伸び行く宇宙需要の中でCapabilityの継続改善が、ビジネス拡大へ直結

客先認定進行中

民間エンジン；回転体用Ni基合金の認定作業進捗中。
認定完了後はハイエンドの需要を捕捉し、世界有数の高合金認定サプライヤーへ

新規ユーザー拡張中

エンジンシャフトビジネスを大型機中心から狭胴機へ拡張
世界のベストセラーエンジン認定プロセスへ。2028年供給を目指す

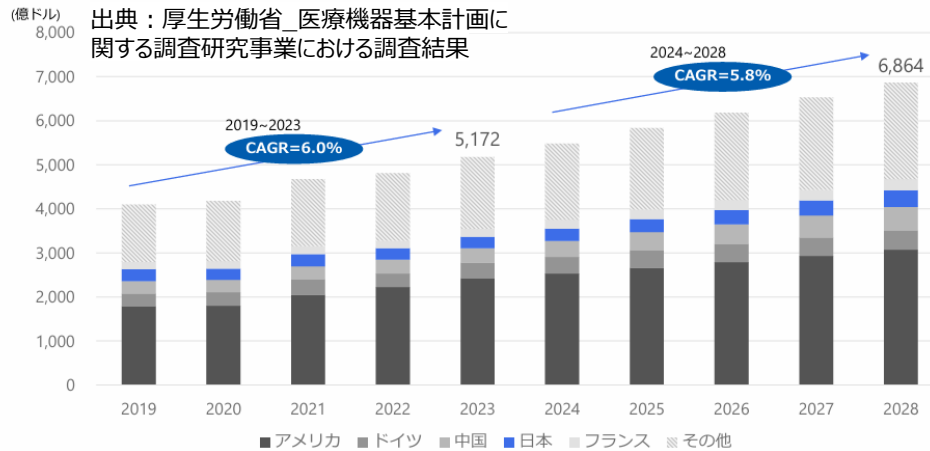
高合金 x 航空宇宙需要

グローバルサプライヤーとしての地位確立とともに中長期的に持続的価値を提供

■ 医療向けチタン素材

- ✓ 世界の医療機器市場は約6%で成長しており、高齢化社会において今後も同水準で維持される予測
- ✓ 医療機器において、チタン素材は「優れた生体適合性」「軽量」「高強度」「非磁性」という特徴から、人工関節やインプラントなどの体内埋め込み型医療機器に幅広く使用されている

世界の医療機器市場の推移(2019-2028)



チタンの主な用途



当社の強み

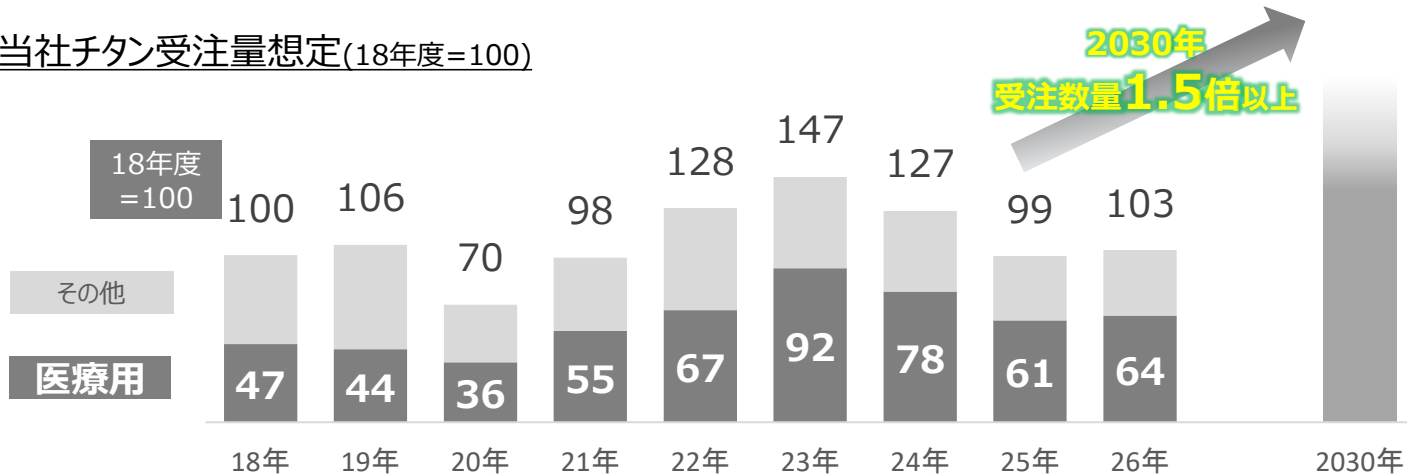
- 製造技術
 - 独自溶解技術 (PPC炉、LIF炉) によって、高融点金属の溶解可能
 - 精度の高い温度管理技術と製造技術により、難製造チタン合金の高効率線材圧延が可能、および複雑な二次加工技術を有する
- 市場での位置づけ
 - チタン合金棒線の**国内シェア80%超** (当社調べ)
- 品質保証
 - 航空規格(AMS)レベルの**検査保証体制**
- サプライチェーン
 - 海外二次加工メーカーやグローバルネットワーク連携

医療向けチタン素材

事業の拡大

- ✓ 将来的には20%の世界シェアを目指す（現状10%程度(当社調べ)）
- ✓ チタン用二次溶解設備(VAR)の設備投資を実施し生産能力を増強（25年10月 1基導入済、26年8月 1基導入予定）

図 当社チタン受注量想定(18年度=100)



知多第2工場に導入したVAR

手術用ロボット向け磁石

- ✓ 手術用ロボットアームの関節は、非常に高いトルクと緻密な動作が求められる。
- ✓ 当社の熱間加工リング磁石を使用することで、モーターを小型・軽量化しながらも強力な出力を実現し、ロボット全体のコンパクト化に貢献しています。

ダイドー電子製
熱間加工リング磁石



※重希土類(Dy,Tb)フリー

手術用ロボット

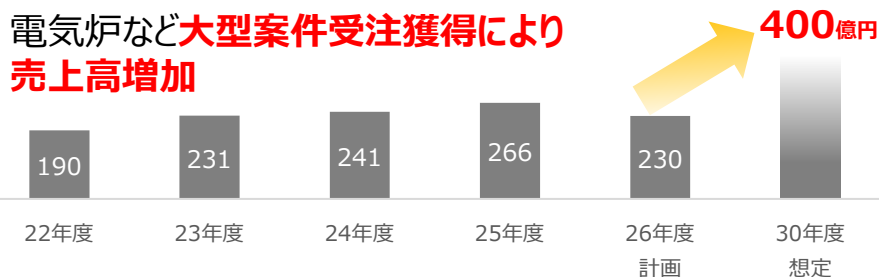


■エンジニアリング事業の拡大（電気炉、熱処理炉）

- ✓ 脱炭素社会の実現へ向けたニーズを背景に中長期的な事業拡大を目指す
電気炉など**低CO₂先進設備の受注拡大**
→高炉メーカーによる電炉需要、普通鋼電炉市場の拡大を取り込み
- ✓ 操業技術と設備技術の融合により、ユーザー視点で製品を開発
- ✓ 省エネルギー設備を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献

[今後の事業戦略詳細]
エンジニアリング説明会
2026年12月16日16時
開催予定（WEB）

エンジニアリングセグメント売上高目標(億円)



電気炉・精錬炉の納入実績、シェア（当社調べ）

- 電気炉
 - ・納入実績：241基(1950年～)
 - ・国内トップシェア（1 / 3 占有）
- 取鍋精錬炉（L F）
 - ・納入実績：73基
 - ・国内L Fトップシェア（2 / 3 占有）

熱処理炉の納入実績、シェア（当社調べ）

- 真空焼結炉
 - ・納入実績：138基
 - ・国内希土類磁石向けトップシェア
- 雰囲気焼鈍炉（S T C 炉）
 - ・納入実績：368基
 - ・国内特殊鋼熱処理炉トップシェア

令和7年度補正予算 省エネルギー投資促進 ・需要構造転換支援事業

『（I）工場・事業場型』先進設備・システムに**当社12製品**が採択

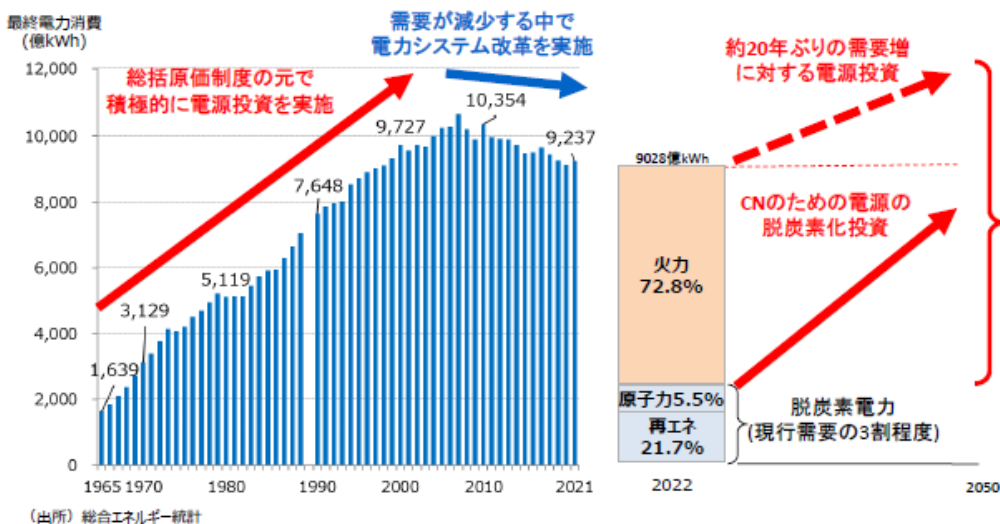
製品群	No	製品名
鉄鋼設備	1	炉体巡回式電気炉（STARQ）
	2	（バッチ装入機能を持つ）移動式炉頂スクラップ予熱設備付き電気炉
	3	環境対応型スクラップ予熱設備
	4	溶け落ち判定システム（E-adjust）
	5	電気炉直接集塵制御
	6	製鋼工場建屋集塵設備高効率制御システム
熱処理設備	7	プレミアムS T C 炉（第2世代）
	8	高効率燃焼システム（DINCS）
	9	ModulTherm（モジュールサーモ）
	10	SyncroTherm（シンクロサーモ）
	11	ローラーハース式連続真空熱処理炉
	12	ローラーハース式超高温連続熱処理炉

STARQ、MSP、SSP、E-adjust、プレミアムSTC、DINCS、SyncroTherm、シンクロサーモは、大同特殊鋼株式会社の商標または登録商標です。

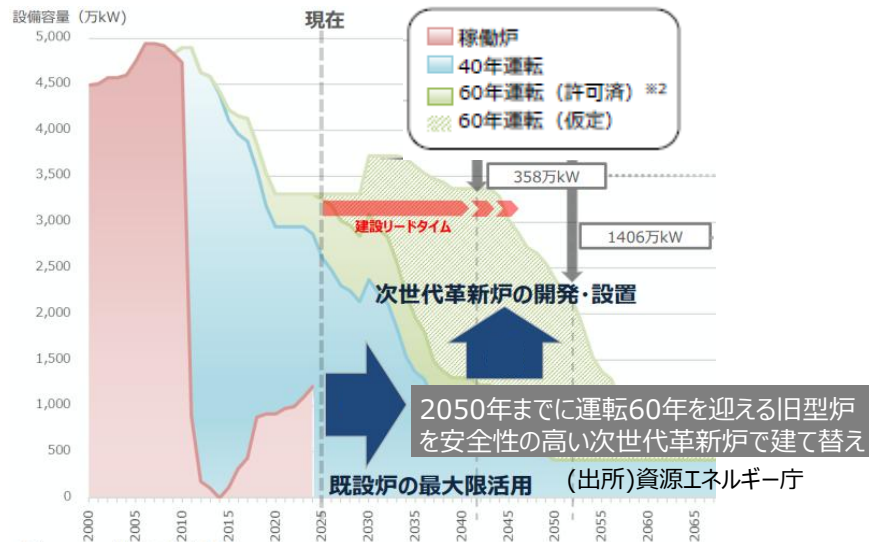
■ 原子力・核融合炉部材：低CO₂排出の発電推進

- ✓ 化石燃料依存のエネルギー供給リスク、AI・データセンター拡大による電力需要増大に向け、次世代革新炉である **SMR、核融合向け素材**の供給を通じて、低CO₂排出電力の拡大推進へ貢献していく

■ CO₂排出量削減と電力需要増加に向けた投資計画



■ 原子力の安全性向上を目指した次世代革新炉の開発



SMR(小型モジュール炉)

- 2024年に初回製品を受注
- 既存原子炉よりも耐熱性・耐食性に優れた材料が求められるため、その製造技術開発にも取り組み中

核融合発電 (ITER実験炉)

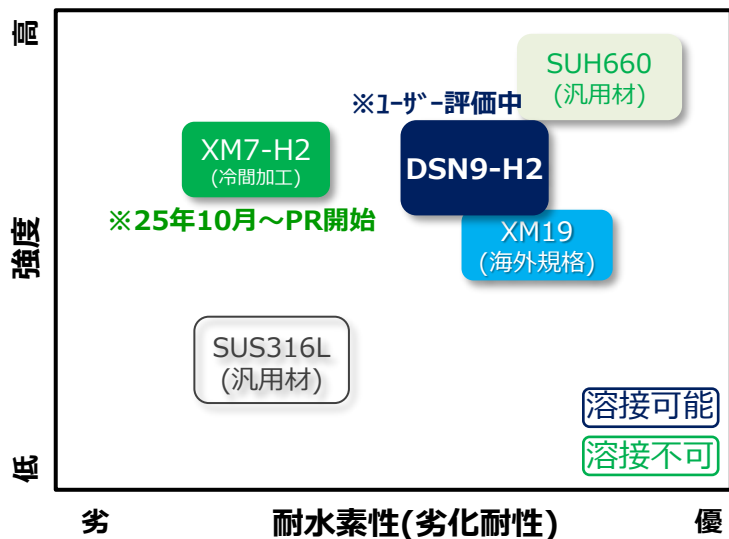
- 7か国共同プロジェクトに2021年より参画
- 当社製品も実験炉に組み込み試験待ち
⇒ 当社における取り扱い製品
TFコイル、ダイバータ、外側垂直ターゲット

■ 耐水素用材料の開発（水素環境評価、材料開発）

- ✓ 世界的なカーボンニュートラル社会への対応に伴い、水素ステーション・水素モビリティ・水素製造プラント・水素タービン発電などへの材料ニーズ拡大中
- ✓ 金属は水素環境下で脆化することがあるため、当社は実環境を想定した評価設備を導入し長期間の水素環境下の使用に耐えうる耐水素材料の開発を推進中

◀ 耐水素用材料の開発状況 ▶

- ・汎用材としてSUS316Lが一般的
- ・高強度材のDSN9-H2を開発し、市場展開中（パイプなどの薄肉化が可能）
- ・プロセス制約があるが、Moを含まない低廉なXM7-H2も開発し、市場PR開始



【図】 耐水素用材料と大同独自開発材の位置づけ

◀ 水素脆化評価設備 ▶

- ① 高圧水素ガス雰囲気材料試験機
 - ・HyTReC(福岡県)内に設置
 - ・引張特性/疲労特性の評価実施

※HyTReC：(公財)水素I社[®]-製品研究センター



外圧式



内圧式

- ② 電解チャージ式水素供給
低速引張試験機
 - ・水素+応力負荷環境下における伸び挙動を評価



電解チャージ式水素供給
低速引張試験機

■ 磁石事業の概要

- ✓ 特定国に偏在する重希土類(※Dy, Tb)を使用しない重希土類フリー熱間加工磁石を開発、量産化
- ✓ 安定供給の実現によりCASEをはじめ様々な電子部品に必要とされている

※Dy:ジスプロシウム、Tb:テルビウム

重希土類フリー熱間加工磁石の特長

特長

- 微細ナノ結晶構造 重希土類完全フリーを実現 (高い耐熱性)
- 塑性加工による結晶配向 形状/配向の自由度が高い
- 金型寸法で磁石形状決定 ネットシェイプ成形が可能 (加工レス)

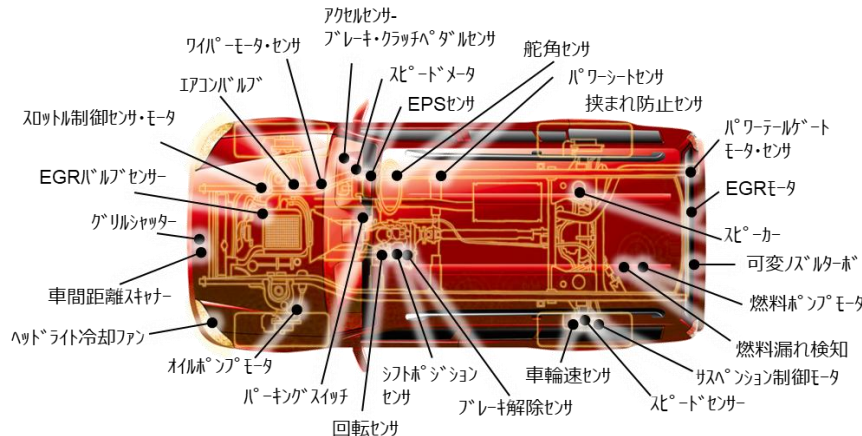


価値

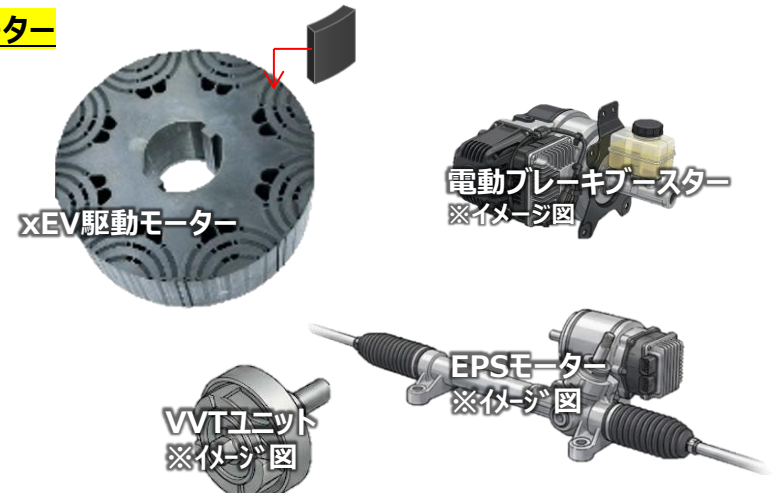
- ▶ 安定調達に寄与
- ▶ モーターの高効率化に寄与
- ▶ コストダウンに寄与
- ▶ 高い歩留 (最初からリサイクルを最小化するアプローチ)

主な車載用途

▶ センサー・小型アクチュエーター



▶ モーター

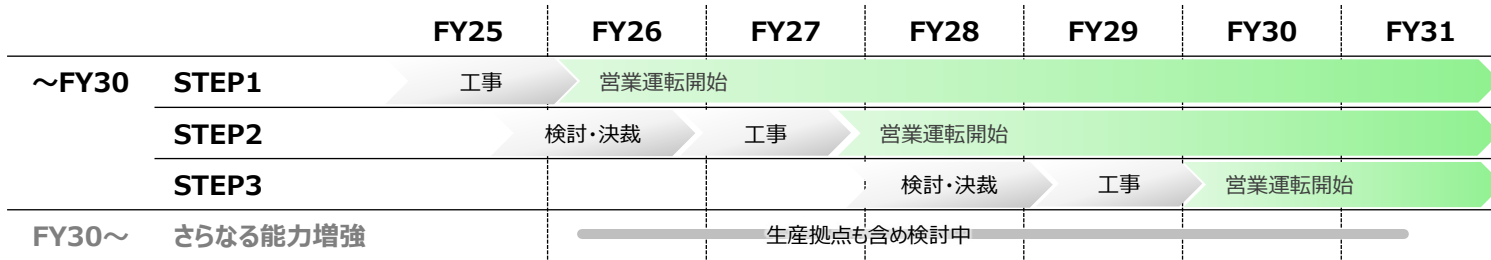


■ 磁石事業規模の拡大

投資戦略

- ✓ 重希土類フリー熱間加工磁石の能力増強として国内に新工場を建設
- ✓ 設備投資は2030年までに50億円実施予定
- ✓ 2026年4月からSTEP1(15億円設備投資)の製造ライン稼働開始(HEV駆動用モーター磁石)

<設備投資スケジュール>



<国内新工場>

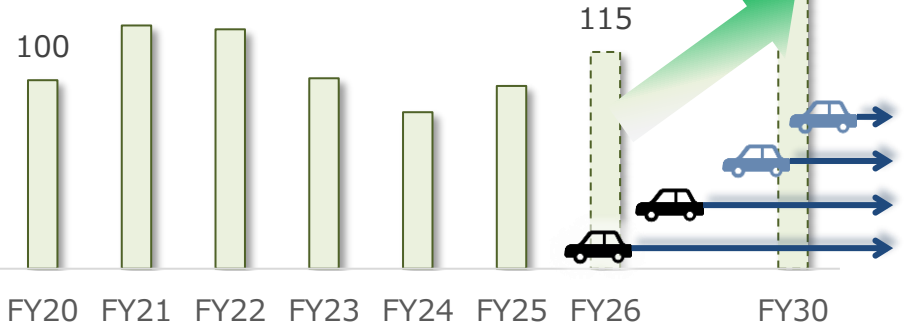


<磁石事業の売上拡大計画>

(売上高：FY20=100)

車載駆動用モーター新規量産プロジェクト

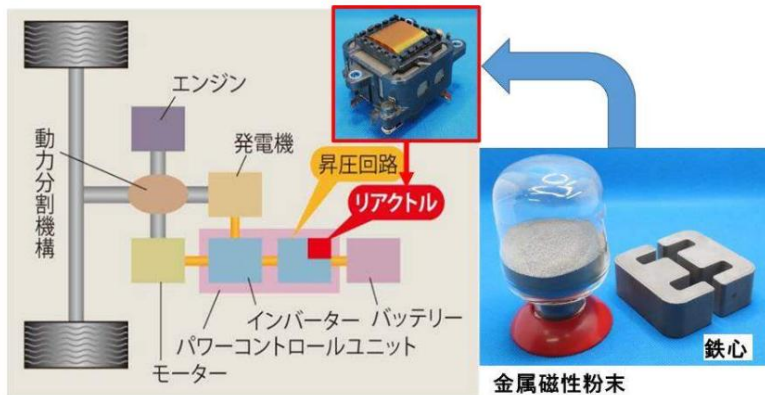
車載駆動用モーター新規開発プロジェクト



■ リアクトル用高機能磁性金属粉末

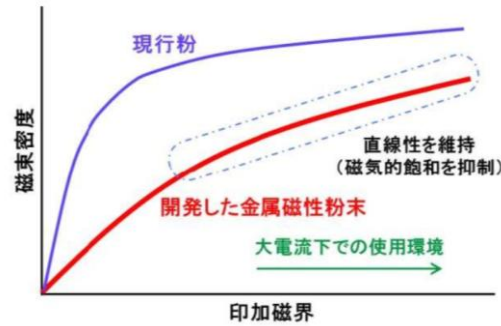
- ✓ 当社の良質な軟磁性粉末が、電動車に搭載されるリアクトル部品の小型化、および部品コスト削減に貢献

<ハイブリッド車の動力機構とリアクトル部品>



<新しく開発した金属磁性粉末>

当社のガスアトマイズ技術の適用によって高純化された軟磁性粉末は、良質な磁気特性を有し、トヨタ自動車様のハイブリッドシステムに搭載されるリアクトル部品への採用に至った。従来のリアクトル部品対比磁氣的損失の低減により、リアクトル部品体積は30%低減し、さらに部品製造コストにも貢献することができた



<開発した金属磁性粉末の磁化曲線の直線性>



<ハイブリッド用リアクトル部品>

■ Liバッテリー負極材



- ✓ 電気自動車やスマートフォン用の電源として幅広く使用されるLiイオン電池用途向けに電池容量が従来のLiイオン電池負極材(黒鉛) 対比、5倍以上の高容量を発揮するSi合金粉末を用いた負極材を開発中

■ 成長市場製品（その他） 船舶用エンジンバルブ

その他

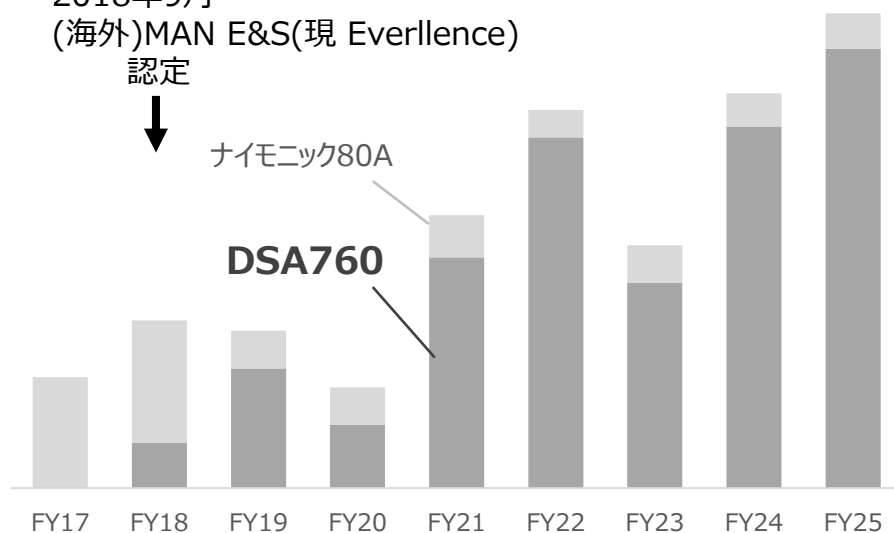
- ✓ 排ガス規制による燃焼温度上昇で顕在化した高温腐食の課題に対して、当社が開発した**高硬度・高耐食性を有するDSA760**が**世界トップのドイツMAN社（現Everllence社）**から**2018年に適用認定**
- ✓ 当社開発のDSA760が省エネルギーエンジンの性能向上に貢献
- ✓ 汎用のナイモニック80Aに代わり採用拡大。**次世代グリーン燃料(アンモニアなど)にも対応可能**であり、安定した長期需要が見込まれる
- ✓ 中大型船用バルブの**世界シェアは約80%**

【ライセンサー認定】

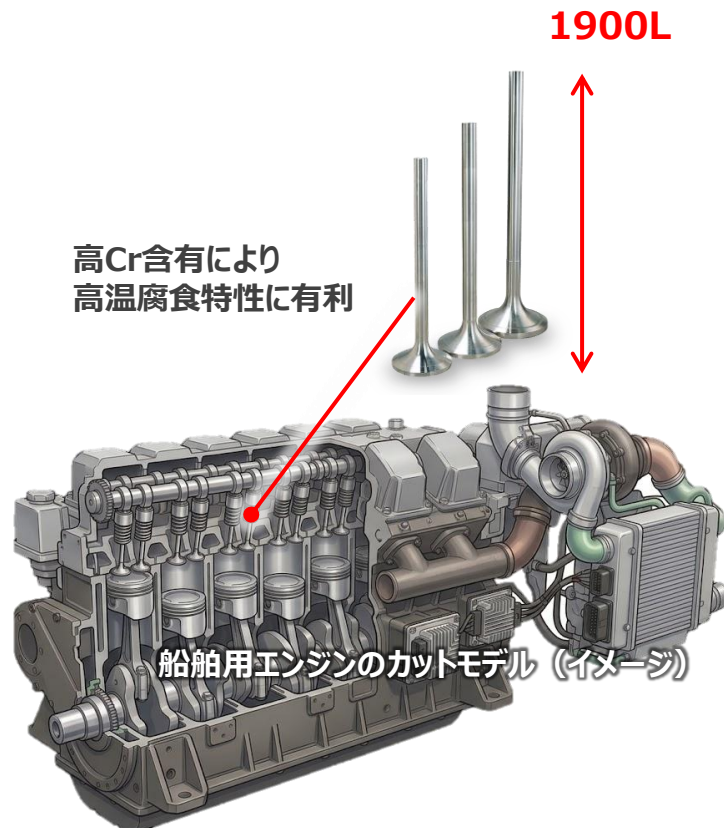
2016年4月
(国内)J-ENG 認定

2018年9月
(海外)MAN E&S(現 Everllence)
認定

船用2ストロークエンジン用弁棒受注数



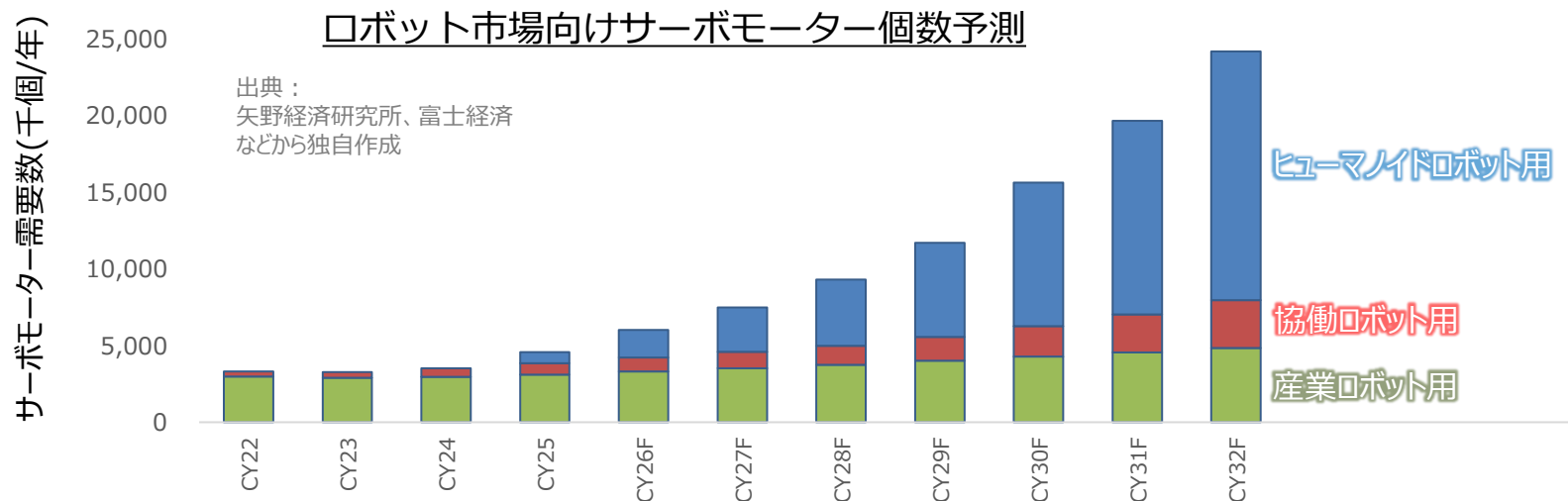
DSA760船舶用エンジンバルブの受注本数推移



■ 成長市場製品（その他）産業ロボット

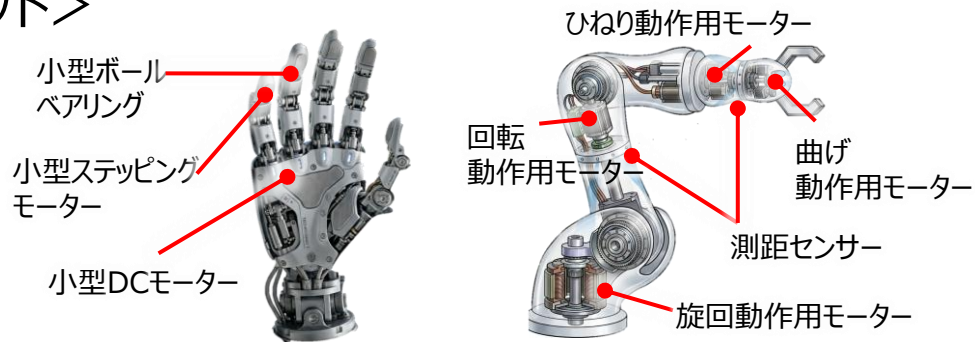
その他

- ✓ 協働ロボット・ヒューマノイドロボットの普及が進み、ロボット用サーボモーター、センサー需要は大きく拡大



＜代表的な当社製品の適用ターゲット＞

- ・小型モーター：
超小型熱間加工リング磁石
※重希土類(Dy, Tb)フリー
- ・近接・測距センサー：
高出力点光源LED素子



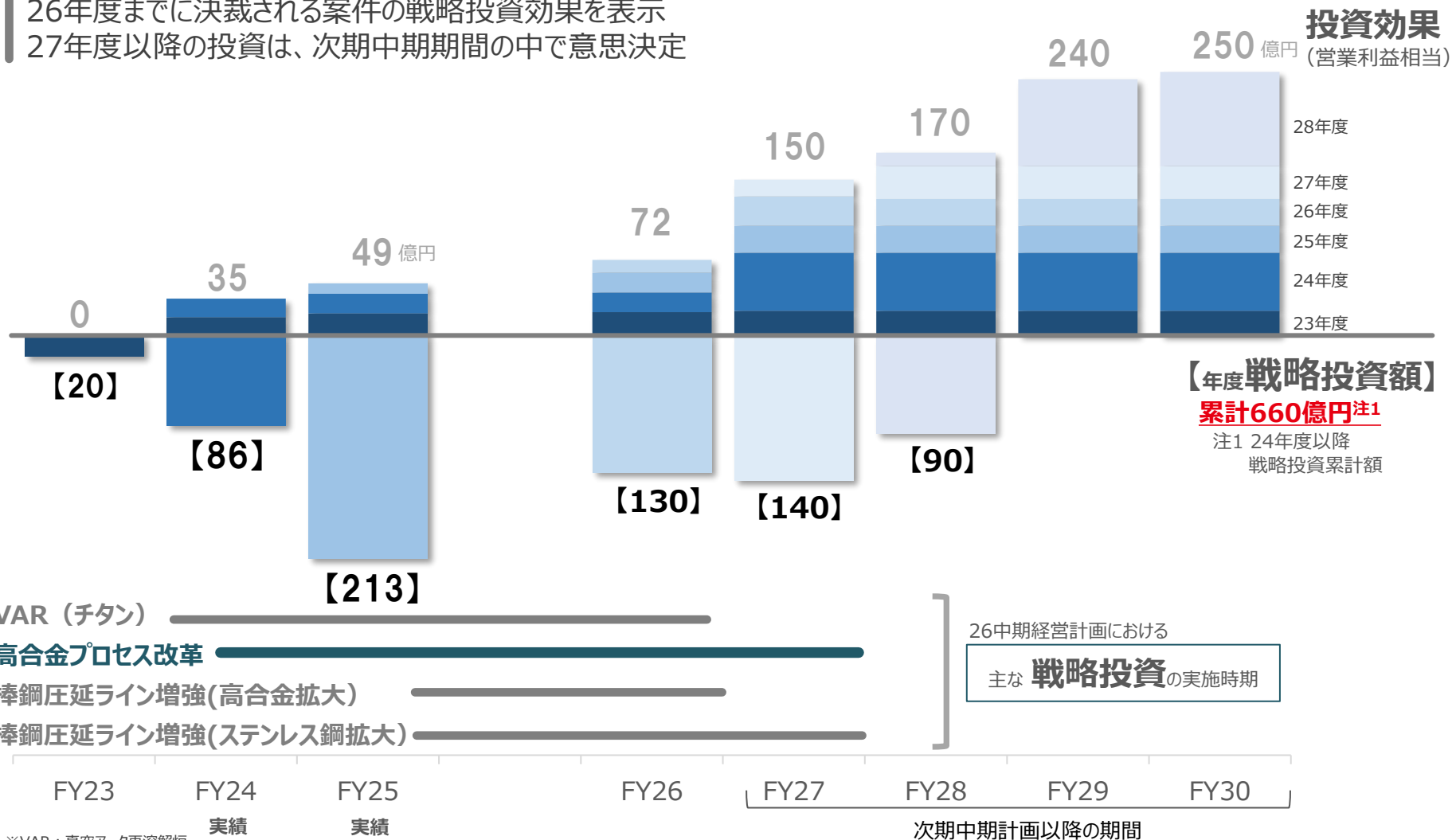
■ 成長分野への戦略投資

✓ 高合金、チタン製品、磁石製品など、26中期計画の戦略的大型投資の決裁は概ね完了

		設備投資内容	設備イメージなど
産業機械部品	航空宇宙 その他(船用バルブ)	■ 大型四面鍛造機、VIM能力増強、VAR 2基増設 熱処理・加工能力増強 航空機、掘削(Oil & Gas)向け高合金認定取得、自由鍛造品製造能力増強 投資額：360億円 2027年度プロジェクト完工に向けて順次設備を導入	 大型四面鍛造機 (27年度完工予定)
	高合金プロセス改革プロジェクト 高合金	■ 星崎工場棒鋼圧延ライン増強 高合金の棒鋼圧延能力拡大 投資額 36億円 稼働時期 2027年3月	 星崎工場 棒鋼圧延ライン
	半導体	■ 知多第2工場におけるVAR設置 2基 半導体製造装置用ステンレス鋼、高合金製造能力増強 製造能力 20%向上 投資額 52億円(含む付帯設備)	 知多第2工場 真空再溶解炉 (VAR)
磁性材料	真空再溶解炉 (VAR)増強 高機能ステンレス鋼 高合金	■ 知多工場太丸圧延化 ステンレス鋼などの棒鋼圧延ライン製品可能範囲拡大 投資額 16億円 稼働時期 2027年8月	 知多工場 分塊圧延ライン
	医療 真空再溶解炉 (VAR)増強 チタン製品(医療用)	■ 知多第2工場におけるチタン用VAR設置 2基 チタン製品の高受注環境へ対応するため製造能力を増強 投資額 41億円(含む付帯設備) 稼働時期 1基目：2025年10月、2基目：2026年8月	 Ti-15Mo 生体用低弾性率チタン合金 製造技術開発・市場投入を実施
	CASE 磁石製造能力増強 熱間加工磁石	■ 電動車駆動モータ用磁石製造ライン設置 旺盛な電動車需要に対応。2030年までに合計約50億円の設備投資を計画 投資額 15億円 (STEP1) 稼働開始 2026年4月	 重希土類フリー特殊配向磁石

■ 戦略投資の利益拡大効果（進捗）

26年度までに決裁される案件の戦略投資効果を表示
27年度以降の投資は、次期中期期間の中で意思決定



- ・VAR (チタン)
- ・高合金プロセス改革
- ・棒鋼圧延ライン増強(高合金拡大)
- ・棒鋼圧延ライン増強(ステンレス鋼拡大)

※VAR：真空アーク再溶解炉

■ 日本高周波鋼業の株式取得

✓ 2026年2月に日本高周波鋼業の株式を取得し、完全子会社化を実施



渋川工場 自由鍛造品工場



溶解設備
-真空誘導炉VIM 3基
-真空再溶解炉VAR 11基

(26年2月2日株式取得) 日本高周波鋼業 工具鋼、軸受鋼、ステンレス鋼 製造工場



(小ロット)
溶解設備
-電気炉 2基(40t、10t)
-真空誘導炉 (3t)
-真空再溶解炉VAR (7t)



知多工場 特殊鋼一貫製造工場



溶解設備
-電気炉 4基

知多工場に隣接した知多第2工場
VAR2基導入(2025年2月)



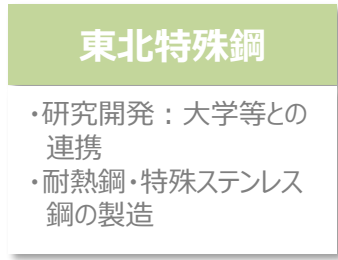
生産アロケーション戦略

- ✓ 渋川工場の高合金増強、星崎・知多第2工場の高機能素材の拡充を進め、日本高周波鋼業の生産設備も活用する
- ✓ 知多工場では既存製品のコスト競争力を強化しつつ、ステンレス鋼などより高付加価値製品へのシフトを進める

※2026年5月15日
当社が公開買い付けすることを公表

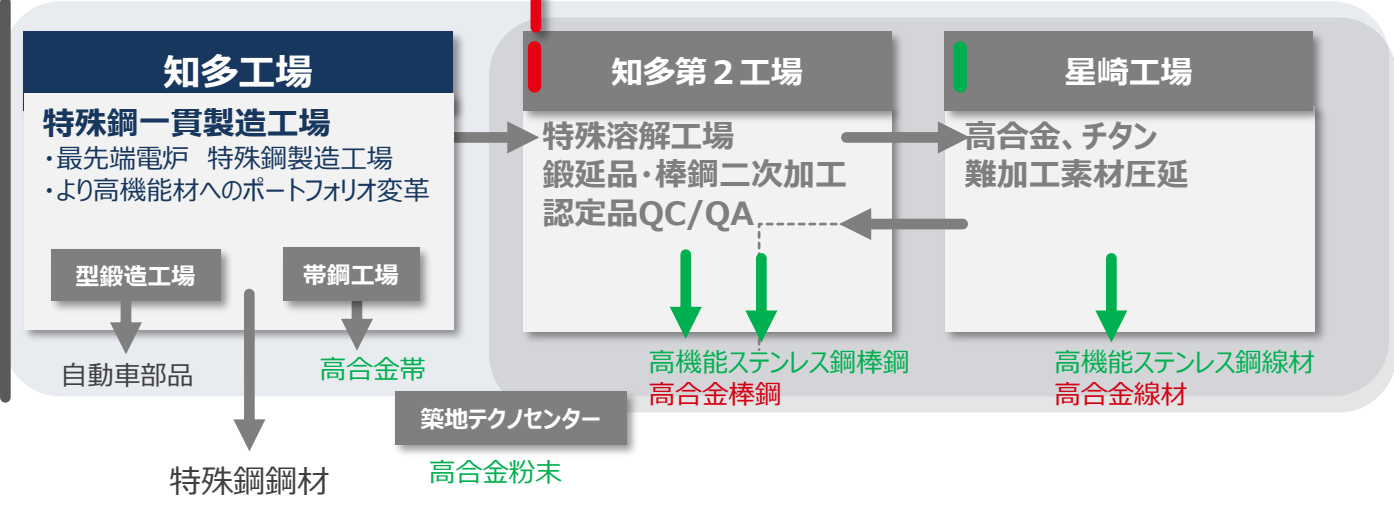
※2026年2月 完全子会社化

- ### ■ 高合金プロセス改革
- 航空宇宙、重電、船舶、掘削向け溶解～自由鍛造能力を拡充
 - 渋川工場：機能的な溶解、鍛造、熱処理設備増設で高合金製造能力を増強
 - 知多第2工場：渋川工場の熱処理、加工検査工程を知多第2工場に移管



- ・渋川工場の工具鋼生産を移管 → 渋川工場の高合金製造能力創出
- ・知多工場など小ロット品を移管
- ・知多工場などでロット集約生産の推進
- ・グループ内製化（外注抑制）推進

- ### ■ 高機能ステンレス・チタン
- 知多第2工場にて新VAR設備を設置
 - 星崎工場にて高合金やチタンなどの難加工素材の圧延生産能力を拡充



- ### ■ 特殊鋼鋼材
- 既存製品のコスト競争力強化しつつ、ステンレス鋼など高付加価値品へシフト
 - 需要変化に合わせた生産体制へ
 - 二次加工拠点の生産アロケーションや整備も今後検討

■ ありたい姿と経営目標

2030年 “ありたい姿”

高機能素材の価値を極め、顧客ヘネフィットを創造し、
サステナブル社会の実現に貢献する

26中期

経営方針

社会経済・産業構造の変化を事業好機とし、事業ポートフォリオの変革を遂行し、
新たなビジネス・ドメイン（顧客×提供価値×手段）で持続的な利益成長を実現する

行動方針

「事業ポートフォリオの変革」「経営基盤の強靱化」「ESG経営の高度化」

目指すべき
経営指標

営業利益 600億円以上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業P/F変革（成長市場製品拡大） ■ 戦略投資の早期効果発現（高合金プロなど） ■ M&A戦略（日本高周波鋼業 戦力化） ■ 構造改革（人材アロケーションなど） ■ 固定費の削減、労働生産性向上
ROE 9%以上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資産売却の促進（政策保有株式・不動産など） ■ 株主還元の安定化（下限DOE導入） ■ 株主資本コントロールの実施（自己株式の取得）
PBR 1.0以上	<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナビリティ経営の高度化 ■ ガバナンスの改善 ■ ステークホルダーコミュニケーションの強化 （国内外の投資家との接点づくり拡大）

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。